SONY®

4-158-555-**02**(1)

IC レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IC RECORDER

ICD-BX80

⚠警告 安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

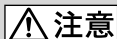
警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災　感電

行為を禁止する記号

禁止　分解禁止

ぬれ手禁止　接触禁止

警告

火災　感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

禁止

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらイヤーレシーバーなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を落とさない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

禁止

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

目次

準備

基本の操作

その他の録音操作

その他の再生操作

編集する

メニューについて

その他

困ったときは

準備1：箱の中身を確認する

本体（1）

表示窓に貼られているフィルムを
剥がしてお使いください。

ソニー単4形アルカリ乾電池（2）

取扱説明書（1）

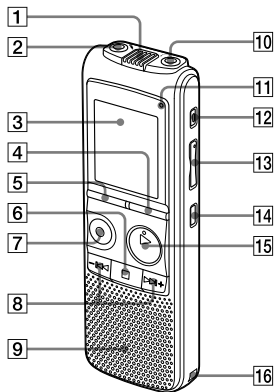
保証書（1）

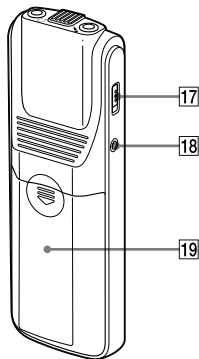
ソニーご相談窓口のご案内（1）

上手な録音ガイド（1）

この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、本機を使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

各部のなまえ

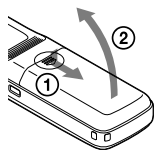
本体(表面)

1 内蔵マイク
2 (マイク)ジャック*
3 表示窓
4 表示／メニューボタン
5 分割ボタン
6 ■(停止)ボタン
7 ● 録音／一時停止ボタン
8 −|◀◀/▶▶|+(早送り／早戻し／選択)ボタン
9 スピーカー
10 (ヘッドホン)ジャック
11 録／再ランプ
12 消去ボタン
13 音量+*／−ボタン
14 (リピート) A-Bボタン
15 ▶ 再生／停止・決定ボタン*
16 ストラップ取り付け部
(ストラップは付属していません。)

本体(裏面)

17 ホールドスイッチ
18 DC IN 3Vジャック
19 電池ぶた

* 凸点(突起)がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

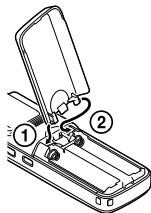
準備2：電池を入れる

表示窓に貼られているフィルムを剥がしてお使いください。

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単4形アルカリ乾電池（付属）を2本入れ、ふたを閉める。

どちらの電池も⊖から先に入れてください。

ヒント

- 電池を交換する際、電池を取りはずしても録音した用件やアラーム設定は消えません。
- 電池を交換する際、電池を取りはずしても約1分間、時計は動いています。

電池ぶたは落としたり、無理な力を加えたりするとはずれることがあります。そのときは上の図のようにはめ直してください。

使用できる電池と充電池

本機では、以下の乾電池、充電池をお使いになれます。

- 単4形アルカリ乾電池2本（付属）
- 充電式ニッケル水素電池単4形（別売）：NH-AAA-2BKA

充電器は、以下の製品をご利用ください。

- ニッケル水素電池専用急速充電器（別売）：BCG-34HRES

ご注意

- 乾電池は電池のメーカーや種類によって性能のばらつきがあり、使用時間の目安に対して特に低温下では短くなる場合があります。

- 乾電池を交換するときは、必ず2本とも新しい乾電池に交換してください
- 別売のACパワーアダプター AC-E30L使用時は、電池残量表示は表示されません。

使用できない電池

マンガン電池

電池を交換する時期

電池の残量が少なくなってくると、表示窓の表示でお知らせします。

電池の残量表示

：電池の交換時期が近づいています。

↓

：電源が切れ、操作ができなくなります。

準備3：電源を入／切する

ホールド

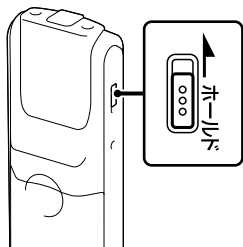
電池を入れると表示窓に表示が出て電源が
入ったことがわかります。
本機をお使いにならないときは、電源を切る
ことで電池の消耗を抑えることができます。

電源を切るには

停止中にホールドスイッチを矢印の方向にず
らすと、しばらくたってから電源が切れます。

電源を入れるには

ホールドスイッチを矢印と逆の方向にずらす
と電源が入ります。

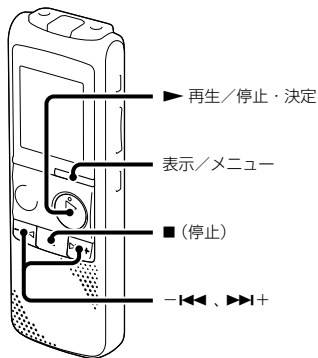
ヒント

- 長時間ご使用にならない場合は、電源を切って
  おくことをおすすめします。
- 電源を入れて停止状態のまま10分経過すると
  自動的に表示が消えます。（ボタンを押せば、操
  作できます。）

準備4：時計を合わせる

► 再生／停止・決定

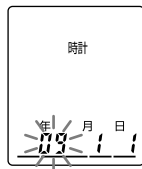
表示／メニュー

■（停止）

−⏮、⏭＋

アラーム機能を使用したり、録音した日時を記録するためには、本機の時計を合わせておく必要があります。
お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま約1分以上お使いにならなかったあとに電池を入れたときは、年表示が点滅します。

電池を入れてすぐに時計を合わせる

1 年月日と時分を合わせる。
−⏮ または ⏭＋ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

時計
年 月 日
09 1 1

2 停止画面に戻すには ■（停止）ボタンを押す。

メニューを使って時計を合わせる

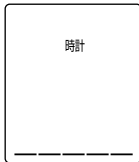
停止中にメニューを使って時計を合わせることができます。

1 メニュー画面で「時計」を選ぶ。

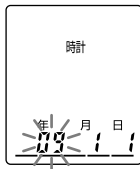
①表示／メニューボタンを長押ししてメニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

SHQ
録音モード

②－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「時計」を表示させる。

時計

③► 再生／停止・決定ボタンを押す。
「年」の数字が点滅します。

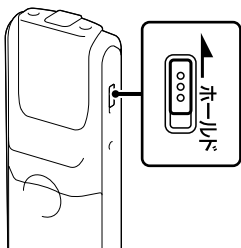
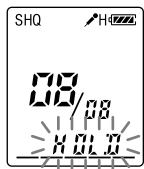
2 年月日と時分を合わせる。
－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

時計
年 月 日
09 1 1

3 停止画面に戻すには ■（停止）ボタンを押す。

ご注意

それぞれの手順の間を約1分以上あけると、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。

ホールドについて

誤操作を防止する(ホールド)

ホールドスイッチを矢印の方向にずらします。
「HOLD」が約3秒間表示され、すべてのボタンが操作できなくなります。

ホールドを解除するには

操作できるようにするには、ホールドスイッチを矢印と反対の方向にずらします。

ご注意

録音中にホールドにした場合、すべてのボタン操作ができなくなり、誤操作を防止します。録音を止めるには、まずホールドを解除してください。

ホールド中でもアラーム再生は止められます。

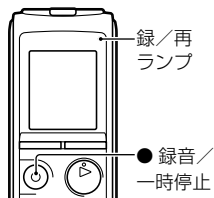
アラーム再生時、どのボタンを押してもアラーム音や用件再生を止めることができます。(通常の用件再生は停止できません。)

録る

ご注意
録音を始める前に、ホールドを解除して電源を入れてください。

録音を始める

1 停止中に ● 録音／一時停止ボタンを押す。

録／再ランプがオレンジに点滅後、赤く点灯します。
● 録音／一時停止ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。
新しい用件は自動的に一番最後に録音されます。

録／再ランプ
● 録音／一時停止

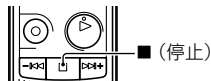
2 内蔵マイクを録音する音の方向へ向ける。

内蔵マイク

録音を止める

1 ■（停止）ボタンを押す。

今録音した用件のはじめで停止します。

■（停止）

ご注意

- 録音中、本機に手などが当たったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。ご注意ください。
- 録音を始める前に必ず電池残量表示（9ページ）を確認してください。

アクセス中のご注意

画面上に「ACCESS」の表示が点滅中、または録／再ランプがオレンジに点滅している間はメモリーへ録音データを記録しています。アクセス中は、電池をはずしたり、ACアダプター（別売）を抜き差ししないでください。データが破損するおそれがあります。

その他の操作

録音を一時停止する*	● 録音／一時停止ボタンを押す。 録音一時停止中は録／再ランプが赤く点滅し、「PAUSE」表示が点滅します。
録音一時停止を解除する	もう一度 ● 録音／一時停止ボタンを押す。 先ほど録音していた用件に続けて録音することができます。（録音一時停止あと、録音を続けず、停止するときは、■（停止）ボタンを押します。）
今録音したばかりの用件を聞く	► 再生／停止・決定ボタンを押す。 録音が解除され、今録音した用件のはじめから聞くことができます。
早戻し再生する	録音中または録音一時停止中に－⏮（早戻し）ボタンを長押しする。 録音が解除され、今録音したところが早戻し再生されます。ボタンを離すと、離したところから再生が始まります。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、録音一時停止は解除され、録音停止になります。

ヒント

- 本機で録音される用件はMP3ファイルで録音されます。
- フォルダには最高99の用件が録音できます。
- 録音をする前に、あらかじめためし録りするか、録音モニター（25ページ）をしながら録音することをおすすめします。

メモリー残量表示について

残量が減ると、ひとつずつ消えていきます。

時間 分 秒
点滅

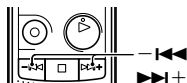
録音中に残り時間が10分を切るとメモリー残量表示が点滅し、残り時間が1分を切ると「残り時間」表示モードに切り替わり、残量表示とカウンター表示が点滅します。不要な用件を消去してください。

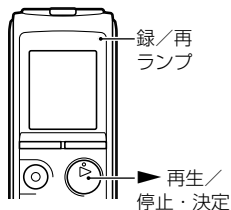
聞く

ご注意
再生を始める前に、ホールドを解除して電源を入れてください。

再生を始める

1 −⏮ または ⏭＋ボタンを押して、用件を選ぶ。

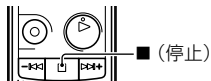
−⏮
⏭＋

2 ► 再生／停止・決定ボタンを押す。
すぐに再生が始まり、録／再ランプが緑に点灯します。

録／再ランプ
► 再生／停止・決定

3 音量＋／−ボタンを押して、音量を調節する。

音量＋／−

再生を止める

1 ■（停止）ボタンを押す。

■（停止）

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	► 再生／停止・決定ボタンを押す。 もう一度 ► 再生／停止・決定ボタンを押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いている用件の頭に戻る	−I◄◄ ボタンを短く1回押す。
前の用件、さらに前の用件に戻る	−I◄◄ ボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）
次の用件に進む	►►I＋ボタンを短く1回押す。
さらに次の用件に進む	►►I＋ボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して進みます。）

消す

ご注意

- 一度消去した内容はもとに戻すことはできません。ご注意ください。
- 消去する前に、ホールドを解除して電源を入れてください。
- 保護設定された用件は消去できません。保護設定を解除してから消去してください。(43ページ)

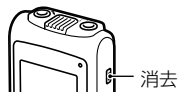
用件を選び消去する

1 停止中または再生中に消去したい用件を選ぶ。

2 消去ボタンを長押しする。

確認音が鳴り、用件番号と「消去」が点滅します。

LP H
消去
08/08

消去

3 「消去」の点滅中に消去ボタンをもう1度押す。

用件が消去され、以降の用件番号が繰り上がります。

途中で消去をやめる

1 「用件を選び消去する」の手順3の前に■(停止)ボタンを押します。

■(停止)

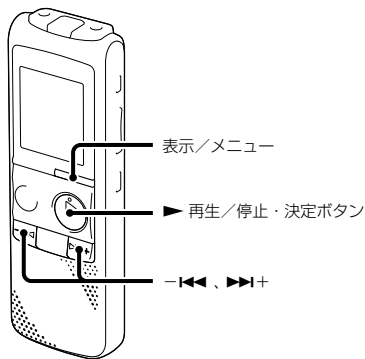
他の用件を消去するには

「用件を選び消去する」の手順1から手順3を繰り返す。

ひとつの用件の一部分だけ消去するには

用件分割で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分の用件番号を選んで「用件を選び消去する」の手順1から手順3の操作をします。

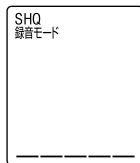
録音の設定を変える

録音モードを選ぶ

表示／メニュー
► 再生／停止・決定ボタン
－⏮、⏭＋

停止中にメニューで用途に応じた録音モードを選ぶことができます。

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「録音モード」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

SHQ
録音モード

3 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「SHQ」、「HQ」、「SP」または「LP」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

HQ
録音モード

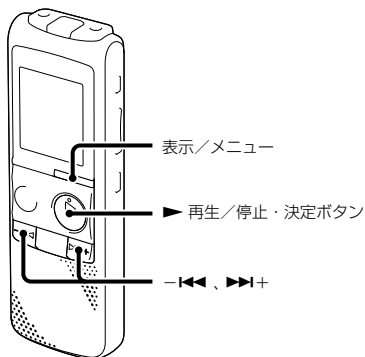
SHQ	モノラル超高音質モード(44.1 Hz/192 kbps) モノラル音声で高音質な録音ができます。
HQ	モノラル高音質モード(44.1 kHz/128 kbps)
SP	モノラル標準モード(44.1 kHz/48 kbps)
LP	モノラル長時間モード(11.025 kHz/8 kbps) 音質を重視しない簡易な録音、メモ録音はLPモードで長時間お使いになれます。

より良い音質で録音したいときは、SHQモードまたはHQモードをお使いください。
お買い上げ時は、「SHQ (モノラル超高音質モード)」設定になっています。

4 ■ (停止)ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

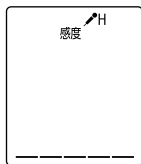
録音中は「録音モード」の切り換えはできません。

マイク感度を選ぶ

表示/メニュー
► 再生/停止・決定ボタン
−⏮ 、⏭+

停止/録音時にメニューでマイク感度設定を切り換え、用途に合わせて、マイクの感度を選ぶことができます。

1 表示/メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 −⏮ または ⏭+ボタンを押して、「感度」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

感度 H

3 −⏮ または ⏭+ボタンを押して、「**H**（会議）」または「**L**（口述）」を選び、►（再生）／決定ボタンを押す。

L
感度

H（会議）	小さな音を大きくするとともに、全体の録音レベルを最適化することでバランスのとれた録音を実現します。広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。
L（口述）	口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

お買い上げ時は、「**H**（会議）」設定になっています。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

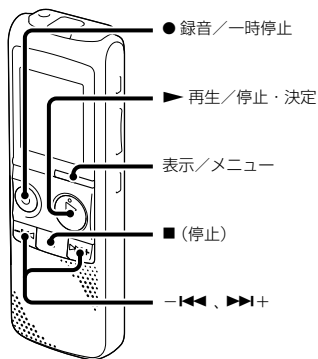
音がしたとき自動録音する —VOR（Voice Operated Recording）録音

● 録音／一時停止

► 再生／停止・決定

表示／メニュー

■（停止）

－⏮ 、⏭＋

停止／録音時に、メニューで、ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音が一時停止するように設定することができます。

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

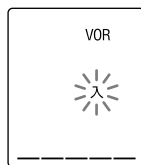
2 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「VOR」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

VOR

切

3 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「入」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

VOR

入

お買い上げ時、「VOR」は「切」になっています。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

5 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

録音 と「VOR」が表示されます。

マイクで拾う音が一定レベル以下まで小さくなると、「VOR」と「PAUSE」が点滅して、VOR録音が一時停止状態になります。
VOR録音一時停止状態のときに、マイクが一定レベル以上の大きさの音を拾うと、VOR録音が再開されます。

VOR録音を解除するには

手順3で「VOR」を「切」にします。

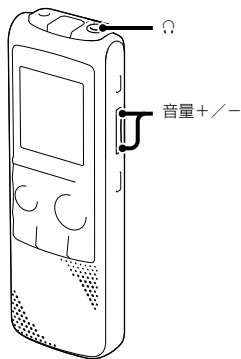
ご注意

VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせてマイク感度を切り換えてください。マイク感度を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、メニューで「VOR」を「切」に設定してください。

録音中に操作する

録音中の音をモニターする

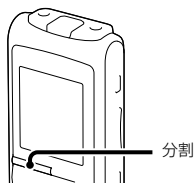
Ω

音量＋／－

イヤーレシーバーを Ω（ヘッドホン）ジャックにつなぐと、録音中の音をモニターすることができます。
イヤーレシーバーからの音量（モニター音量）は、音量＋／－ボタンを押して調節します。録音される音量に影響はありません。

ご注意

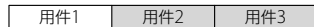
録音中に音をモニターしている場合は「ノイズカット」の設定は無効になります。

録音の途中で用件を分割する

分割

続けて録音しながら新しい用件として録音することができます。
一度分割すると再結合できません。

1 録音中に分割ボタンを押す。

「分割」が点滅します。
押したところから新しい用件番号がつき、2つの用件として、続けて録音されます。

用件1	用件2	用件3

▲
用件分割

用件2と用件3は
続けて録音される

ヒント

録音一時停止中でも用件分割できます。

ご注意

- 用件を分割した場合、前の用件の最後とあとの用件の最初の音がわずかに切れることがあります。
- 用件のはじめから0.5秒までと終わりから0.5秒までの間では用件分割はできません。
- 録音中に頻繁に用件分割してから次の操作をしたとき、録／再ランプが点滅し、操作を受け付けるまでの時間が長くなることがありますが、故障ではありません。ランプが消えるまでお待ちください。
- 分割したあと、分割した位置の音声がわずかに重複する場合があり、分割した前後の用件から同じ音声が聞こえることがあります。
- A-Bリピートや1件リピート中に分割操作を行うとリピート設定が解除されます。
- 録音可能残量時間が3秒未満になると用件分割はできません。

接続して録音する

外部マイクをつないで録音する

外部マイク(別売)

● 録音／一時停止

1 停止中に別売のミニプラグ付マイクを (マイク)ジャックにつなぐ。
ステレオの別売マイクを接続し、「SHQ」、「HQ」モードにて録音するとステレオで録音できます。
また、別売のステレオヘッドホンを使用する事によりステレオ再生できます。

2 ● 録音／一時停止ボタンを押す。
内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。
入力レベルが適正ではない場合は、本機のマイク感度の設定を変更してください。
プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

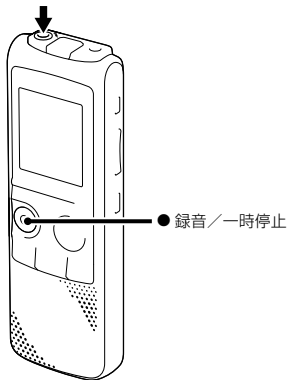
電話機や携帯電話の音声を録音する

別売の電話録音用マイク、ECM-TL1を使うと、電話機や携帯電話での自分と相手の声を録音することができます。
接続方法などについて詳しくは、ECM-TL1の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 録音する場合には、本機と接続後、通話状態と録音レベルをご確認の上ご使用ください。
- 呼び出し音、発信音を録音した場合、会話が小さい音で録音されることがあります。そのような場合には、通話状態になってから本機を録音状態にしてください。
- 電話機の種類、回線の状況によってVOR機能が働かないことがあります。
- 本機を使って通話録音をした場合、万一、これらの不都合により録音されなかった場合は、一切の責任を負いません。

他の機器の音声を録音する

テープレコーダなど

● 録音／一時停止

CDプレーヤーなど他の機器の音声を本機に録音できます。

1 停止中に他の機器を本機につなぐ。

他の機器（テープレコーダーやテレビ、ラジオなど）のイヤホン端子を、別売のオーディオコード（抵抗入り）を使って（マイク）ジャックとつなぎます。

2 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

内蔵マイクは自動的に切れ、つないだ機器の音声を録音します。

ヒント

- 録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから、録音することをおすすめします。
- 入力レベルが適正ではない場合は、他の機器のヘッドホン端子を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。
- ステレオの機器と別売のステレオケーブル（抵抗入り）にて接続し、「SHQ」、「HQ」モードにて録音するとステレオで録音できます。
  また、別売のステレオヘッドホンを使用する事によりステレオ再生できます。

ご注意

ICレコーダーへの入力に抵抗なしオーディオコードを使用すると音声が途切れて録音されることがあります。必ず抵抗入りオーディオコードをお使いください。

再生の方法を変える

より便利な再生方法

高音質で再生するには

- イヤーレシーバーで聞く：
  別売のステレオイヤーレシーバーを ☊（ヘッドホン）ジャックにつないでください。
  スピーカーからは音が出なくなります。
- 外部スピーカーで聞く：
  別売のアクティブスピーカーを ☊（ヘッドホン）ジャックにつないでください。

再生中に早送り／早戻しするには

- 早送り：
  再生中に▶▶I＋ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。
- 早戻し：
  再生中に－I◀◀ ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。押し続けると、高速での早送り／早戻しになります。

最後の用件の終わりまで再生または早送りすると

- 最後の用件の終わりまで来ると、「END」表示が約5秒間点滅します。
  点滅中は録／再ランプは緑に点灯しています（再生音は聞こえません）。
- 「END」の点滅と録／再ランプが消えると、最後の用件の頭に戻って止まります。
- 「END」の点滅中に－I◀◀ ボタンを押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後の用件が長時間の用件の場合で、用件中の後ろの方を探して再生したい場合は、▶▶I＋ボタンを押し続けていったん用件の最後まで早送りして、「END」表示の点灯中に－I◀◀ ボタンを押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後の用件以外の場合は、次の用件の頭に送ってから再生中に早戻しするとすばやく探せます。

1件リピート再生するには

再生中に ▶ 再生／停止・決定ボタンを長押しします。

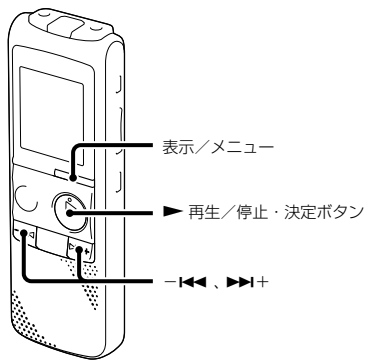
「⟲」が表示され、その用件が繰り返し再生されます。

通常再生に戻るには、▶ 再生／停止・決定ボタンを押します。

再生速度を調節する — DPC（デジタル・ピッチ・コントロール）

表示／メニュー

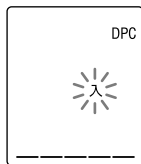
► 再生／停止・決定ボタン

－◄◄ 、 ►►＋

再生速度を＋100%から－50%の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

1 停止／再生時に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 －◄◄ または ►►＋ボタンを押して、「DPC」を選び、◄ 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 －◄◄ または ►►＋ボタンを押して、「入」を選び、◄ 再生／停止・決定ボタンを押す。

DPC
入

4 －◄◄ または ►►＋を押して、再生速度を選び、◄ 再生／停止・決定ボタンを押す。
►►＋ボタンを押すごとに、－50% ～ 0%の間は「＋5%」刻み、0% ～ 100%の間は「＋10%」刻みで再生速度を設定します。
－◄◄ ボタンを押すごとに、－50% ～ 0%の間は「－5%」刻み、0% ～ 100%の間は「－10%」刻みで再生速度を設定します。

5 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

通常の再生速度に戻すには

手順3で「DPC」を「切」にします。

再生の設定を変える

再生モードを変える

必要な部分だけを再生する — A-Bリピート

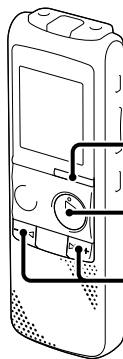
1 再生中に ⇆（リピート） A-Bボタンを押して、A点を指定する。
「A-B B」が点滅します。

2 もう一度 ⇆（リピート） A-Bボタンを押して、B点を指定する。
「⇆」と「A-B」が表示されて、指定した区間が繰り返し再生されます。

A-Bリピート再生を止めて通常の再生に戻すには：
► 再生／停止・決定ボタンを押します。

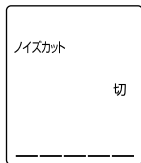
A-Bリピート再生を停止するには：
■（停止）ボタンを押します。

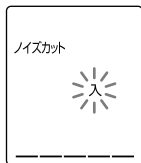
A-Bリピートの範囲を変えるには：
A-Bリピート再生中にもう一度 ⇆（リピート） A-Bボタンを押すと、手順1に戻り、新しいA点が設定されます。手順2に従ってB点を指定します。

雑音を低減して音声を聞きやすくする — ノイズカット機能

表示／メニュー
► 再生／停止・決定ボタン
－⏮ 、⏭＋

録音した音声を聞きやすくするために、音声帯域には影響の出ない低域と高域の雑音を低減します。

1 停止／再生時に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 −⏮ または ⏭+ボタンを押して、「ノイズカット」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

ノイズカット
切

3 −⏮ または ⏭+ボタンを押して、「入」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

ノイズカット
入

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

録音した音声の状態によって、効果に違いがでる場合があります。

ノイズカットを解除するには

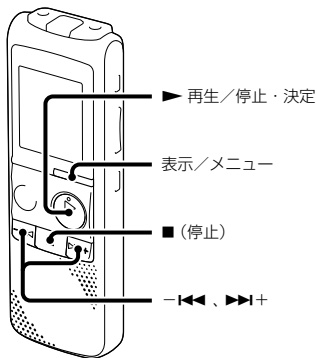
手順3で「ノイズカット」を「切」にします。

希望の時刻に再生を始める — アラーム再生

► 再生／停止・決定

表示／メニュー

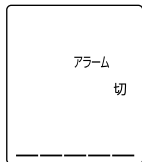
■（停止）

－⏮、⏭＋

あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともに用件を再生できます。
特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。
1用件につき1件のアラーム設定ができます。

1 アラーム再生したい用件を表示させる。

2 アラーム設定をする。

① 停止中に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

② －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「アラーム」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

アラーム
切

③ －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「入」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

アラーム
入

3 アラーム再生したい日時、時刻を設定する。

① −⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「DATE（日時）」、「MON（月曜日）」や「TUE（火曜日）」など設定したい曜日、または「DAILY（毎日）」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

②**「DATE（日時）」を選んだ場合**：
「準備4：時計を合わせる」（11ページ）に従って年月日、時刻を設定します。
曜日や「DAILY（毎日）」を選んだ場合：
−⏮ または ⏭＋ボタンを押して「時」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押し、同じように−⏮ または ⏭＋ボタンを押して「分」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押します。

4 アラームパターンを設定する。
−⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「B-PLAY」（アラーム音のあと、再生）、「BEEP」（アラーム音のみ鳴る）または「PLAY」（再生のみ）を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。
「アラーム　入」が表示されます。

5 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。
メニューを終了すると「(•)」が表示されて、選んだ用件にアラームが設定されます。

設定内容を変更するには

「希望の時刻に再生を始める―アラーム再生」の手順1 〜 2を行い、現在設定されているアラーム再生日が表示されたら手順3 〜 4で新しい内容で設定します。

設定内容を解除するには

「希望の時刻に再生を始める―アラーム再生」の手順2-③で−⏮ または ⏭＋ボタンを押して「切」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押して決定するとアラームは解除されます。表示窓のアラーム表示が消えます。

設定した時刻になると

「アラーム」が点滅して、アラーム再生が始まります。
再生が終わると、自動的に停止します（アラームパターンで「B-PLAY」または「PLAY」が設定されている場合は、アラーム再生した用件の頭に戻ります）。

アラーム再生された用件をもう一度聞くには

► 再生／停止・決定ボタンを押すと、その用件のはじめから再生されます。

アラーム再生を止めるには

アラーム再生中に音量＋／－以外のボタンを押します。ホールド中は、どのボタンを押しても止められます。

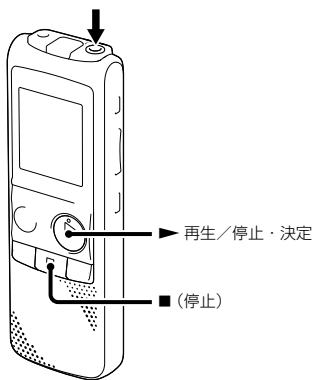
ご注意

- 時計を合わせていない場合や、用件が録音されていない場合は、アラーム設定はできません。
- メニューで「操作音」を「切」に設定していてもアラームが鳴ります。
- 録音中にアラーム設定した時刻になった場合は、「((•))」表示のみが点滅し、録音を終了したときにアラームが鳴り始めます。
- データ更新中にアラーム設定した時刻になった場合は、そのアラームは自動的に破棄されます。
- 2つ以上のアラーム設定時刻になった場合は、時刻の早い方の用件のみアラームが鳴ります。
- 一度設定したアラームは、アラーム再生を終了したあとも解除されません。
- アラーム再生中に別の用件の設定時刻になった場合、用件の途中で次のアラーム再生が始まります。
- アラーム設定した用件を分割した場合、分けた時点より前の用件にのみアラーム設定されます。
- アラーム設定した用件を消去すると、用件に設定されたアラームも一緒に解除されます。

他の機器で録音する

テープレコーダー、
ミニディスクなど

► 再生／停止・決定

■（停止）

他の機器で本機の音声を録音できます。
録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

1 本機の ☊（ヘッドホン）ジャックと他の機器の音声入力端子（ミニプラグ）をつなぎます。

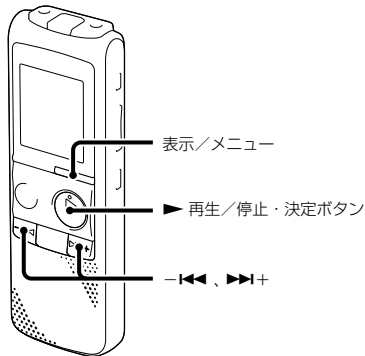
2 本機の ► 再生／停止・決定ボタンを押して再生状態にし、同時に、つないだ機器の録音ボタンを押して、録音状態にする。

本機の用件が他の機器に録音されます。

3 録音を止めるには、本機の ■（停止）ボタンを押し、つないだ機器の停止ボタンを押す。

ご注意

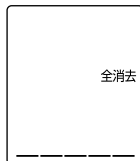
他の機器でマイクジャックに接続するときは、別売のオーディオケーブル（抵抗入り）をお使いください。

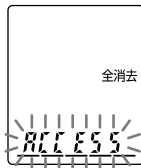
全用件を一度に消去する

ご注意

- 用件に保護設定がされていたら、その用件は消去されません。
- 一度消去した内容は元に戻せません。ご注意ください。

1 停止中に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 −⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「全消去」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 −⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「YES」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

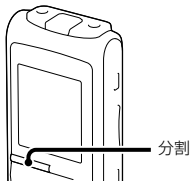
「ACCESS」が表示され、フォルダ内の全用件が消去されます。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

途中で消去をやめるには

手順3で「NO」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押します。

用件をふたつに分ける — 用件分割

分割

SHQ
分割
ACCESS

再生中に用件を分割して、その場所に新しい用件番号が付けられます。会議など1件の用件が長時間になったときなどに、複数の用件に分割しておくと再生したい場所がすばやく探せ、便利です。分割したい用件が入っているフォルダの用件数がいっぱいになるまで、用件を分割できます。

用件1	用件2		用件3
	▲ 用件分割		
用件1	用件2	用件3	用件4

用件番号が1つずつ増える

1 再生中に分割ボタンを押す。
「分割」が点滅します。

2 もう1度分割ボタンを押す。
新しい用件番号がつき、以降の用件番号はひとつずつ送られます。

ご注意

- 分割した用件は再結合できません。(元に戻せません。)
- アラーム設定した用件を分割すると、分割した後ろの用件にはアラーム設定は残りません。
- 用件のはじめから0.5秒までと終わりから0.5秒までの間では用件分割はできません。

用件分割した部分を探して聞くには

分割した用件を1件として用件番号がついているので、用件番号を探すときと同様に－⏮ ボタンまたは ⏭＋ボタンを押して再生する部分を探してください。

メニューの使いかた

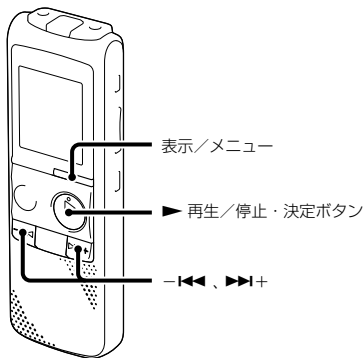
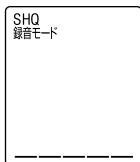
表示／メニュー

► 再生／停止・決定ボタン

－⏮、⏭＋

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

SHQ
録音モード

2 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、設定したい項目を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、設定し、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

L
感度

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

約1分間なにもしないと、メニューモードが自動的に解除され、通常の画面に戻ります。

1つ前の画面に戻るには

メニュー操作中に表示／メニューボタンを押します。

メニューモードを中止するには

■（停止）ボタンを押します。

メニュー一覧

メニュー	設定項目	動作モード（○：設定可能／ー：設定不可）		
		停止中	再生中	録音中
録音モード	SHQ、HQ、SP、LP	○	ー	ー
感度	H、L	○	ー	○
VOR	入、切	○	ー	○
DPC	入（－50% ～ 100%）、切	○	○	ー
ノイズカット	入、切	○	○	ー
時計	_ _年_ _月_ _日、_ _：_ _	○	ー	ー
操作音	入、切	○	ー	ー
アラーム	入（DATE、SUN、MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、DAILY；B-PLAY、BEEP、PLAY）、切	○	ー	ー
保護	入、切	○	ー	ー
全消去	YES、NO	○	ー	ー

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
録音モード	音質などを設定します。 LP：　モノラル長時間モード SP：　モノラル標準モード HQ：　モノラル高音質モード SHQ*：モノラル超高音質モード	20
感度	マイクの感度を設定します。 **H***：広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。 **L**：口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。	21
VOR	VOR（Voice Operated Recording）機能を設定します。 入：　ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音を一時停止します。● 録音／一時停止ボタンを押して、録音を始めるとVOR機能が働きます。 切*：　VOR機能は働きません。	23
DPC	再生速度を設定します。 入：　＋100%から－50%の間で再生速度を調節できます。 切*：　DPC機能は働きません。	30
ノイズカット	ノイズカットを設定します。 入：　音声帯域には影響の出ない低域と広域の雑音を低減して音声をより聞きやすくします。 切*：　ノイズカット機能は働きません。	31
時計	「年」「月」「日」「時」「分」をそれぞれ設定して時計を合わせます。	11

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
操作音	確認音を設定します。 入*：　操作時の受け付け確認音およびエラーのビープ音が鳴ります。 切：　操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません。 **ご注意** 「切」に設定していてもアラームは鳴ります。	—
アラーム	アラーム再生を設定します。 入：　アラームを設定します。「入」を選んだあとに、再生を始める日時や、曜日または毎日再生をする場合の時刻を設定し、アラームパターン（「B-PLAY」（アラーム音のあと再生）、「BEEP」（アラーム音のみ）、「PLAY」（再生のみ））を設定します。 切*：　アラームを解除します。	33
保護	用件を保護して、消去や分割ができないようにします。 入：　用件を保護します。 切*：　保護設定を解除します。	—
全消去	フォルダの中身をすべて消去します。 YES：　「ACCESS」が表示されて、すべての用件を消去します。 NO*：　消去しません。 **ご注意** メニューの「保護」設定が「入」になっている用件は消去しません。	37

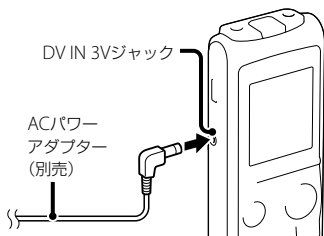
家庭用電源につないで使う

DV IN 3Vジャック
ACパワーアダプター（別売）

長時間録音などをする場合は、家庭用電源（コンセント）で使うと、電池消耗の心配がなく便利です。

1 ACパワーアダプターをコンセントにつなぐ。

2 DC IN 3Vジャックに、別売のACパワーアダプター AC-E30Lをつなぐ。

ご注意

- 録音中（録／再ランプが赤に点灯中）やアクセス中（録／再がオレンジに点滅中）はACパワーアダプターを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。
  なお、用件数が多いと、「ACCESS」表示が長時間表示される場合がありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
- 必ず推奨ACパワーアダプター (AC-E30L)をお使いください。推奨以外のACパワーアダプターを使用すると本体が破損する場合があります。

使用上のご注意

ご使用場所について

運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ(60℃以上)。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内(特に夏期)。
  - 風呂場など湿気の多いところ。
  - ほこりの多いところ。
- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などで本機をポケットに入れての使用。
    身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因になる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
  - 汗をかく状況での使用。
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れると、水濡れの原因になることがあります。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

ノイズについて

- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に本機に手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

主な仕様

本機の仕様

容量(ユーザー使用可能領域)
2 GB (約1.79 GB = 1,924,136,960 Byte)

メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。

周波数範囲
SHQ:75 Hz ~ 20,000 Hz
HQ:75 Hz~17,000 Hz
SP:75 Hz~15,000 Hz
LP:80 Hz~3,500 Hz

スピーカー
直径28 mm

入・出力端子
外部入力(ステレオミニジャック)
　プラグインパワー対応
　最小入力レベル:0.4 mV
ヘッドホン(ステレオミニジャック)
　負荷インピーダンス:16 Ω~300 Ω

再生スピード調節(DPC)
+100%~−50% (MP3)

実用最大出力
300 mW

電源
DC 3.0 V、単4形アルカリ乾電池 (付属) 2本

動作温度
5℃~ 35℃

最大外形寸法
約37.0 mm×111.0 mm×21.2 mm
　(幅/高さ/奥行き)(JEITA*[1])

質量
約71 g (アルカリ乾電池2本含む)(JEITA*[1])

*[1] 電子産業技術協会(JEITA)の測定方法に基づいています。

付属品
6ページ参照

別売アクセサリー
ACパワーアダプター　AC-E30L
ニッケル水素電池専用充電器　BCG-34HRES
充電式ニッケル水素充電池単4形
　NH-AAA-2BKA
エレクトレットコンデンサーマイクロホン
　ECM-CS10、ECM-CZ10、ECM-TL1
アクティブスピーカー　SRS-M50

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

最大録音時間[*2*3]
最大録音時間は、全フォルダ合わせて表のとおりです。

SHQモード	HQモード	SPモード	LPモード
22時間15分	33時間20分	89時間	534時間25分

*2 連続録音の場合は、途中電池交換が必要になります。詳しくは下記の乾電池の持続時間をご確認ください。
*3 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

電池の持続時間

乾電池の持続時間[*1]（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）を連続使用時）

	SHQモード[*2]	HQモード[*3]	SPモード[*4]	LPモード[*5]
録音時	約34時間	約34時間	約39時間	約55時間
スピーカー再生時[*6]	約12時間	約12時間	約12時間	約12時間
ヘッドホン再生時	約36時間	約36時間	約36時間	約36時間

充電式電池の持続時間[*1]（ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AAAを連続使用時）

	SHQモード[*2]	HQモード[*3]	SPモード[*4]	LPモード[*5]
録音時	約22時間	約22時間	約27時間	約37時間
スピーカー再生時[*6]	約10時間	約10時間	約10時間	約10時間
ヘッドホン再生時	約25時間	約25時間	約25時間	約25時間

*1 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用条件によって短くなる場合があります。
*2 SHQモード：モノラル超高音質モード
*3 HQモード：モノラル高音質モード
*4 SPモード：モノラル標準モード
*5 LPモード：モノラル長時間モード
*6 音量レベルを27に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口(裏表紙)、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではICレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、裏表紙に記載のICレコーダー・カスタマーサポートページをご覧いただくか、ソニーの相談窓口（裏表紙）までお問い合わせください。
なお、保証書とアフターサービスについては、48ページをご参照願います。
修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

こんなときは

症状	原因／処置
電源が切れない。	• 停止中にホールドスイッチを矢印の方向に動かす（10ページ）。
電源が入らない。	• 電源がオフになっている。 → ホールドスイッチを矢印と反対の方向に動かす（10ページ）。
液晶表示が消えない。 表示が二重に見える。	• 保護シートが付いていませんか。 → フィルムを剥がしてお使いください。
操作ボタンを押しても動作しない。	• 電池の⊕と⊖の向きが正しくない（8ページ）。 • 電池が消耗している（9ページ）。 • 電源がオフになっている。 → ホールドスイッチを矢印と反対の方向に動かす（10ページ）。
スピーカーから音が出ない。	• 音量が絞られている（16ページ）。 • イヤーレシーバーをつないでいる（25ページ）。
イヤーレシーバーをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にイヤーレシーバーを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 → いったんイヤーレシーバーを抜いて、最後までしっかり差し込む。
「FULL」と 録音 が点滅して、録音できない。	• メモリーがいっぱいになっている。 → 不要な用件を消去する（18、37ページ）。
「FULL」と用件番号（99）が点滅して、操作できない。	• 99件の用件が録音されているため、新たな録音や用件分割ができない。 → 不要な用件を消去する（18、37ページ）。
録音が途中で止まる。	• VORが作動している。VORを使用しないときは、メニューで「切」にする（23ページ）。

症状	原因／処置
雑音が入る。	• 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 外部マイクで録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 → プラグをきれいにクリーニングする。 • イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。 → プラグをきれいにクリーニングする。
録音レベルが小さい。	• 感度が「L(口述)」になっている。 → メニューで「H (会議)」に切り換える(21ページ)。
録音レベルが不安定。(音楽などを録音したとき)	• 本機は会議などの録音の際、自動的に録音レベルを調整するよう設計されているため、音楽などの録音には適していません。
用件を分割できない。	• 99件を超えると、用件分割はできません。 • 頻繁に用件分割をすると、用件分割ができなくなることがあります。 • 保護設定が「入」になっていると用件分割できません。
他の機器から録音するとき、録音レベルが小さすぎたり大きすぎたりする。	• 他の機器のヘッドホン端子を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC (速度調整)が「入」になっているため、調整した再生スピードで再生されている。 → DPC (速度調整)を「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、再生スピードを調整してください(30ページ)。
時計表示が「--:--」になる。	• 時計を合わせていない(11ページ)。
録音日時表示が「--年 --月 --日」または「--:--」になる。	• 時計を合わせていないときに録音した用件には、録音した日付は表示されません。
時計がリセットされる。	• 電池をはずした状態で約1分以上たつと時計がリセットされます。電池を交換するときは、新しい電池を用意してから交換してください。
「SET DATE」が表示され、アラーム再生が設定できない。	• 時計を合わせていない場合は設定できません。

症状	原因／処置
「PRE SET」が表示され、アラーム再生が設定できない。	• すでに他の用件でアラーム設定されているのと同じ時刻を設定しようとすると、設定できません。
「BACK-D」が表示され、アラーム再生が設定できない。	• 現在時刻より前にアラーム設定はできません。
メニュー表示の項目が足りない。	• 再生中または録音中は、表示されないメニューがあります（41ページ）。
電池の持続時間が短い。	• 47ページの乾電池の持続時間は、音量レベルを27で再生した場合の目安です。使用条件によって短くなる場合があります。
電池を入れたまま長い期間使用しないあとで、使おうとすると電池がなくなっている。	• 使用しない場合でも、わずかですが電池を消耗します。この場合の電池寿命は、温度などの環境によっても異なりますが、約2か月が目安です。長い間ご使用にならない場合は、こまめに電源を切る（10ページ）か、電池をはずしておくことをおすすめします。
変更したメニュー設定が反映されていない。	• 設定変更直後に電池が抜かれた場合、本機のメニュー設定が反映されないことがあります。
起動に時間がかかる。	• 用件数が多いと、起動するのに時間がかかることがありますが、故障ではありません。停止画面になるまでお待ちください。
正常に動作しない。	• 電池を取り出して、もう一度入れ直す。
消去できない。	• 保護設定されていると消去できません。 → 保護設定を解除してください。

エラー表示一覧

エラー表示	原因
LO BATT	• 電池が消耗しています。新しい単4形乾電池と取り換えてください。
FULL（録音 が同時に点滅）	• 録音できるメモリー容量がなくなりました。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
FULL（用件番号が同時に点滅）	• 用件の合計が最大用件数（99件）を超えたため、新規の用件を作成できません。いくつかの用件を消去してからやり直してください。

エラー表示	原因
SET DATE	• 時計合わせをしていないと、アラームは設定できません。
NO DATA	• 1件も用件が録音されていません。用件保護、消去とアラーム再生の設定などの操作ができません。
PRE SET	• すでにアラーム設定をした日時または時刻にアラームを設定しようとしています。日時または時刻などもう一度確認して、設定し直してください。
BACK-D	• 現在日時よりも前の日時でアラームを設定しようとしています。年月日などもう一度確認して、設定し直してください。
🔒(「保護」が同時に点滅)	• 選んだ用件が「保護」に設定されています。消去などができません。メニューで「保護」の設定を「切」にすると操作できるようになります。
ERR ACCESS ERR 01 ～ 06	• 何らかの原因でシステムエラーが発生しています。一度電池をはずし、再度入れ直してください。それでも動作しない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）までご連絡ください。

システム上の制約

ICレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因／処置
最大録音時間まで録音できない。	• SHQモード、HQモード、SPモード、LPモードを混ぜて録音すると、最大録音時間はSHQモードとLPモードの最大録音時間の間になります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	• ファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。

表示窓

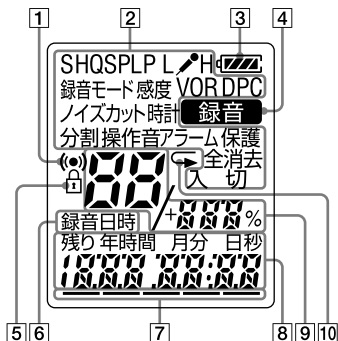
SHQSPLP L H
録音モード 感度 VOR DPC
ノイズカット 時計 録音
分割 操作音 アラーム 保護
全消去
入 切
録音日時
残り 年時間 月分 日秒

1 アラーム表示
用件にアラームが設定されているとき表示されます。

2 メニュー表示
選んだメニュー項目と現在の設定（入／切）が表示されます。

3 電池マーク
電池残量が表示されます。

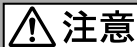
4 録音表示
録音中に表示されます。

5 保護マーク
用件が保護設定されているとき表示されます。

6 「録音日時」表示

7 メモリー残量表示

8 カウンター、残り時間、録音日付、現在時刻表示など。

9 位置表示（現在の用件、総用件）

10 リピート表示

⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

分解禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにイヤーレシーバーで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

禁止

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。
  また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、カセットテープなどに保存してください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。
種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
ニカド(Ni-Cd)
ニッケル水素(Ni-MH)
リチウムイオン(Li-ion)

乾電池
アルカリ、マンガン

ボタン型電池
リチウムなど

⚠危険 充電式電池、乾電池、ボタン型電池が液漏れしたとき

- 充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠危険 **充電式電池について**

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときや、長時間USB ACアダプターで使用するときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

Ni-MH

ニッケル水素充電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素充電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

⚠警告　乾電池、ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届かないところに保管する。**電池を飲み込んだときは、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談してください。**
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解したり、加熱したりしない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときや、USB ACアダプターで使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。
- 液漏れした電池は使わない。

⚠注意　乾電池、ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

索引

数字、記号、アルファベット順

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

著作権と商標について

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

商標について

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→ICレコーダー・カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/ic-rec-support)
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ(下記電話・FAX番号)**
  - 本機の商品カテゴリーは[ICレコーダー]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆セット本体に関するご質問時：
    - 型名：ICD-BX80
    - シリアルナンバー：電池ボックス内
    - ご相談内容：できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆付属のソフトウェアに関連するご質問時：
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	フリーダイヤル	0120-333-020
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	0466-31-2511
修理相談窓口	フリーダイヤル	0120-222-330
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「303」+「#」 を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX(共通)0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

4158555502 (1)